



SAFE COMMUNITY TOWADA

ようこそ十和田市へ

# 十和田市セーフコミュニティ全体概要

令和5年11月15日（水）  
十和田市セーフコミュニティ推進懇談会  
事務局 川村 斉



1

## ・十和田市の概要

2

- ・セーフコミュニティの歩み

3

- ・6つの指標に基づく取組

4

- ・セーフコミュニティの啓発活動

5

- ・セーフコミュニティ活動の成果・効果

6

- ・課題と今後の方向性

# 十和田市の概要① 位置・面積・人口等

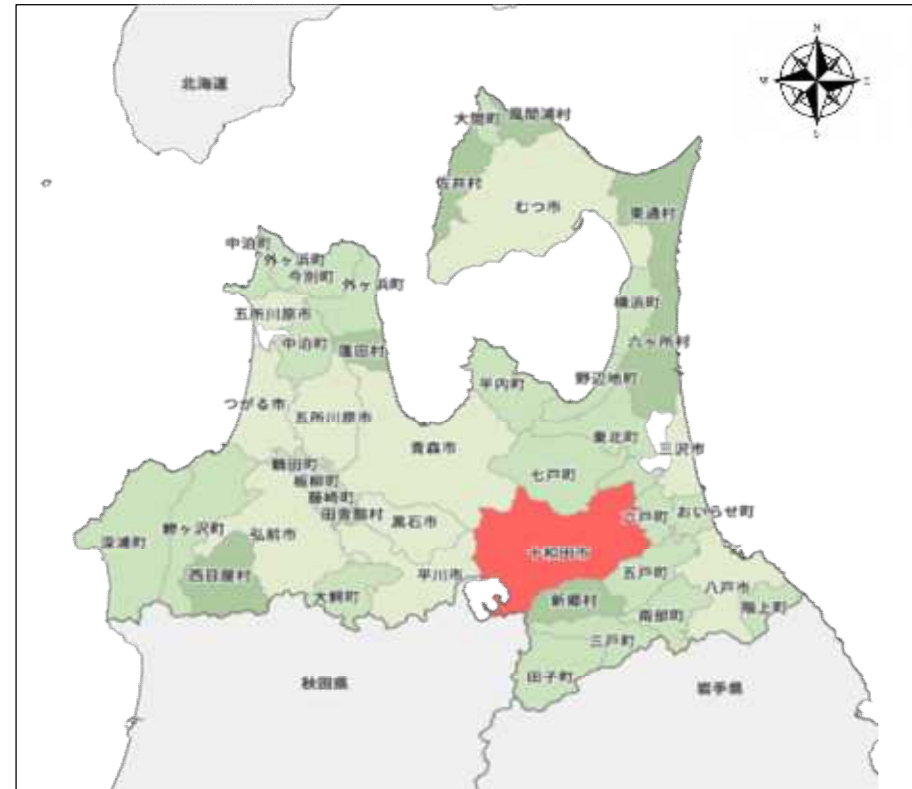
■位置：青森県南地方内陸部

■面積：725.65km<sup>2</sup>

■人口：58,471人

■世帯数：28,176世帯

出典：住民基本台帳（2023年9月末日現在）



## ■人口動態

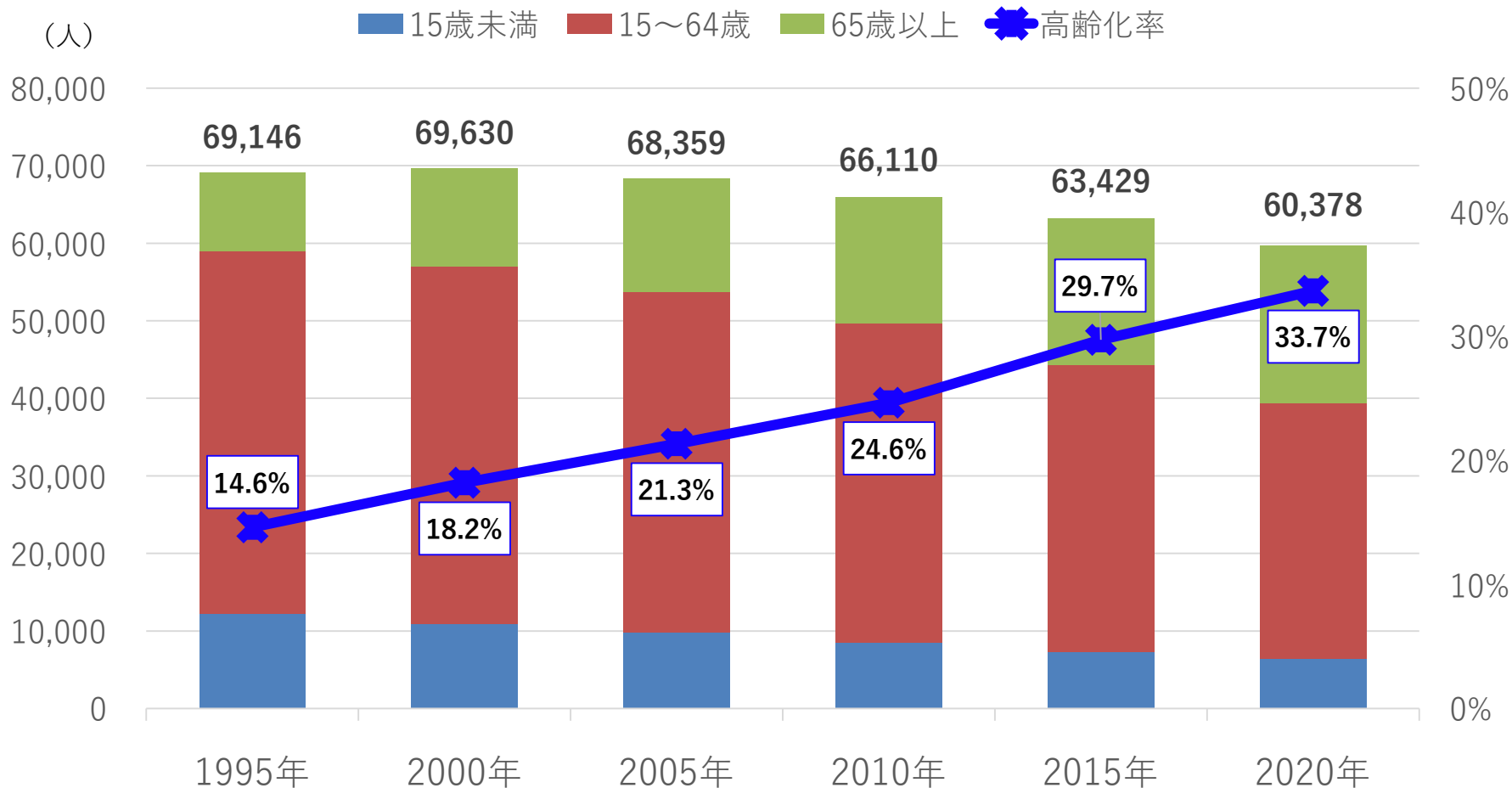
区分	自然動態（人）			社会動態（人）		
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減
2022年	315	904	▲589	1,717	1,770	▲53
2017年	383	763	▲380	1,692	1,974	▲282

出典：十和田市データブック

# 十和田市の概要② 年齢3区分別人口と高齢化

## 人口減少と高齢化が進行

### ■十和田市の人口と高齢化率



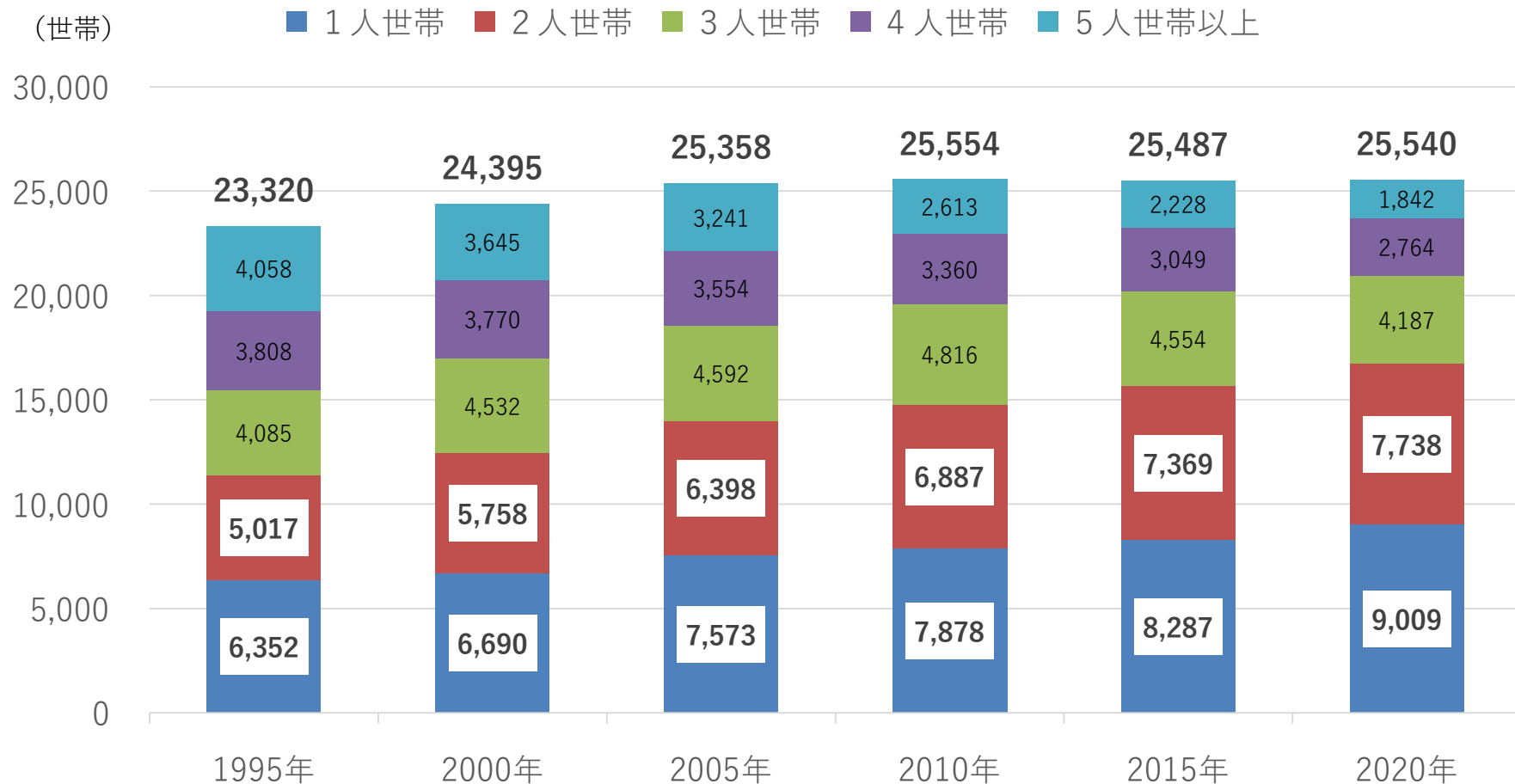
出典：国勢調査

※2005年に（旧）十和田市と十和田湖町が合併。2000年以前の数値は、現在の市域に合わせて組み替えたもの

# 十和田市の概要③ 十和田市の世帯数

世帯数は増加。1人世帯と2人世帯が増えている。

## ■十和田市の世帯数



出典：国勢調査

※2005年に（旧）十和田市と十和田湖町が合併。2000年以前の数値は、現在の市域に合わせて組み替えたもの

# 十和田市の概要④ 面積・気温等

## ■土地利用面積（2022年1月1日現在）

全体	山林	田	畑	宅地	牧場・原野	雑種地	その他
725.65km <sup>2</sup>	57.0%	12.1%	4.3%	2.9%	2.4%	1.4%	19.8%

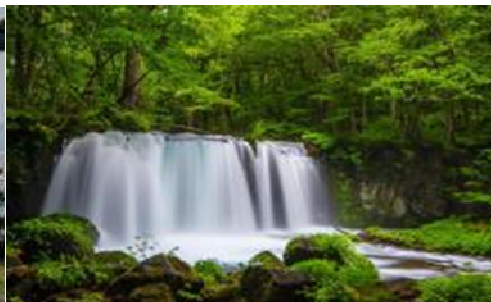
出典：令和5年版十和田市データブック



## ■平均気温と雨（雪）量（2022年）

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均気温（℃）	-1.5	-0.9	3.9	10.6	15.6	18.1	22.1	22.4	20.6	13.2	8.6	0.9
降水量（mm）	28.5	20.5	65.5	36.0	19.5	96.0	104.5	288.5	83.5	36.5	30.5	56.5

出典：令和5年版十和田市データブック



# 十和田市の概要⑤ 医療機関・教育機関等

## ■医療機関（2023年5月1日現在）

病院					一般診療所		歯科診療所
施設数	病床数	うち精神病棟	うち感染症病床	うち一般病床	施設数	病床数	施設数
5	978	(539)	(4)	(435)	41	71	20

出典：青森県保健統計年報（病床数は10万人対）

## ■教育機関（2023年5月1日現在）

区分	小学校	中学校	高等学校	各種学校	※大学
教育機関数	14	9	3	1	1
児・生徒数	2,603人	1,535人	1,566人	32人	1,236人

出典：学校調査（※は2023年9月1日現在）

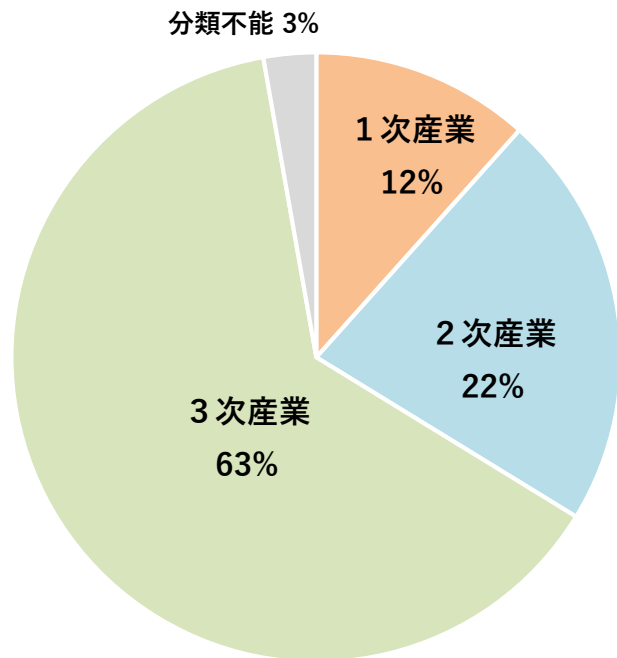
## ■幼稚園・保育施設（2023年5月1日現在）

区分	幼稚園	認可保育所	認定こども園	小規模保育事業	認可外保育所
施設数	2	16	11	1	1
園児数	73人	863人	805人	11人	2人

出典：こども支援課

# 十和田市の概要⑥ 産業

## ■15歳以上の就業者割合 (2022年10月1日現在)



出典：国勢調査

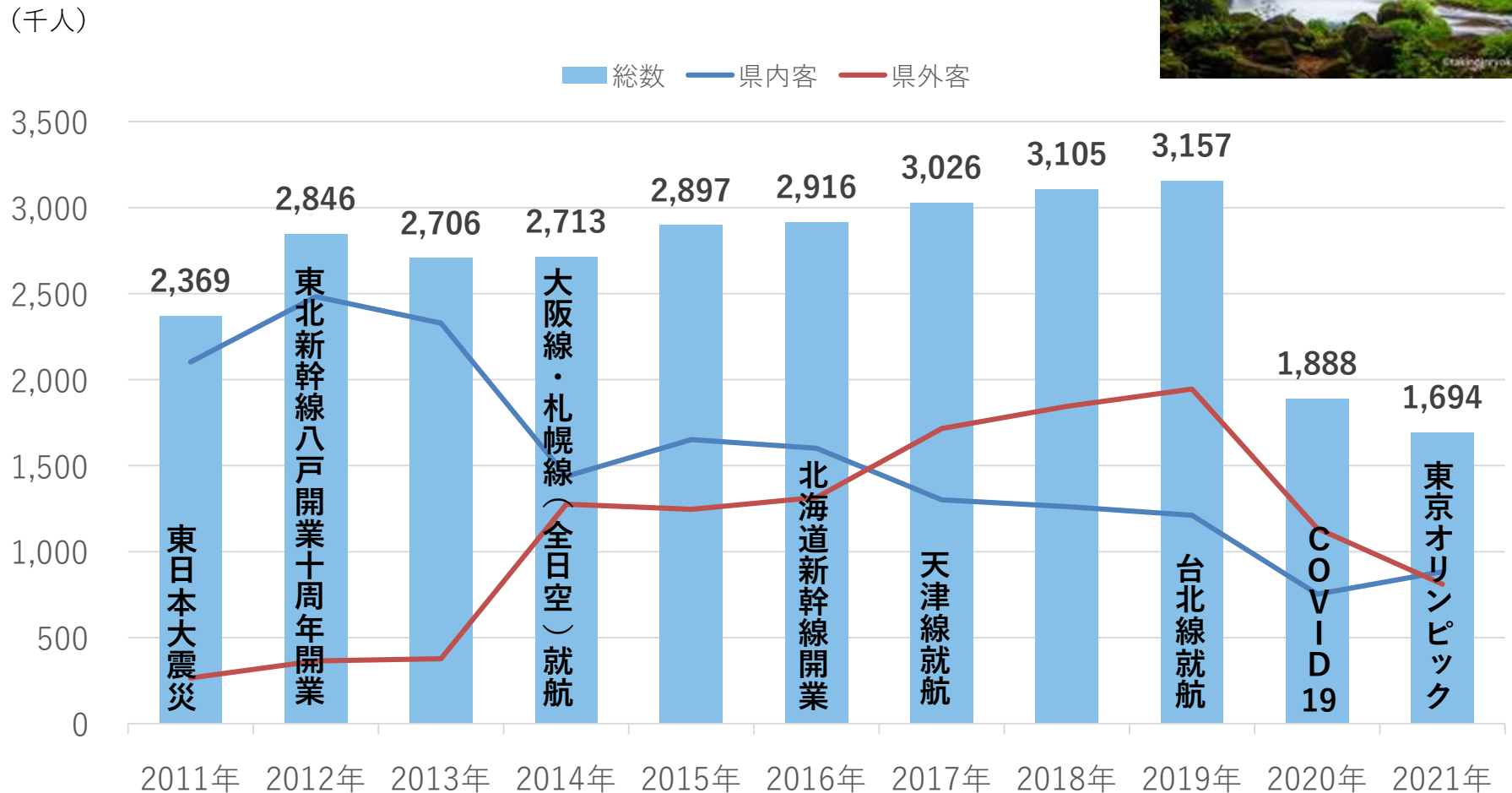
区分	業種	割合
第1次産業	農業	11%
	林業	1%
第2次産業	建設業	11%
	製造業	11%
第3次産業	卸売業・小売業	15%
	医療福祉	15%
	宿泊業・飲食サービス業	5%
	教育・学習支援業	5%
	サービス業	5%
	生活関連サービス・娯楽業	4%
	公務	4%
	運輸業・郵便業	3%
	金融業・保険業	2%
	学術研究・専門・技術サービス業	2%
	その他	3%
分類不能		3%





# 十和田市の概要⑦ 観光

## ■十和田市内への観光客の入込数（2011年～2021年）



# 十和田市の概要⑧ 広域行政等（関連分野）

## ■ 上十三・十和田湖広域定住自立圏

[構成]十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町、秋田県小坂町（10市町村）

## ■ 十和田地域広域事務組合消防本部

[構成]十和田市、六戸町

## ■ 十和田警察署

[管轄]十和田市、六戸町

（十和田地区）



# 十和田市の主な歩み（2019年の認証以降）

年	内容
2020年	<ul style="list-style-type: none"><li>・市、十和田警察署、市内郵便局、事業者と安全安心見守り活動に関する協定を締結</li><li>・市街地循環バス、西地区シャトルバス本格運行</li><li>・屋内グラウンド「こまかいどーむ」オープン</li></ul>
2021年	<ul style="list-style-type: none"><li>・県立三本木農業恵拓高等学校開校（上北地域統合校）</li><li>・市と青森放送(株)が地域防災パートナーシップ協定</li><li>・明治安田生命保険（相）と包括連携協定（健康づくり等）</li></ul>
2022年	<ul style="list-style-type: none"><li>・まちなか交通広場オープン</li><li>・地域交流センター「とわふる」オープン</li><li>・市と(株)青森テレビがSDGs推進に関するパートナーシップ協定を締結</li></ul>
2023年	<ul style="list-style-type: none"><li>・大深内小学校開校（上北管内初となる小中一貫教育校）</li><li>・交通死亡事故ゼロ2年達成による県知事表彰を受賞</li><li>・市と町内会連合会と宅建協会、不動産協会と町内会への加入促進に関する協定を締結</li></ul>

1

• 十和田市の概要

2

• **セーフコミュニティの歩み**

3

• 6つの指標に基づく取組

4

• セーフコミュニティの啓発活動

5

• セーフコミュニティ活動の成果・効果

6

• 課題と今後の方向性

# セーフコミュニティ導入の経緯

## ■十和田市における長年の課題

課題

**自殺**

2009年 自殺率県内最多

課題

**交通事故**

2009年 県下ワースト 1 位

## ■十和田市の特徴

市民ボランティアによる活発な保健活動

自殺・事故・暴力などによる外傷や脅威に対し、プログラムの策定、

モニタリングによる公衆衛生的アプローチで実践する

**新しいまちづくり＝セーフコミュニティ**

の導入を目指す

# セーフコミュニティ認証都市としての歩み

年 月	概 要
2004年7月	保健所等の研修会や講演会をとおして、 市民のセーフティプロモーションへの関心が高まる
2005年8月	上十三保健所長が市長にセーフコミュニティについて説明
2005年10月	保健、福祉分野の担当者、市民ボランティアによる勉強会がスタート
2007年1月	市民ボランティア「セーフコミュニティとわだを実現させる会」が結成
2007年4月	市長（当時）がセーフコミュニティの認証取得を表明
2008年8月	青森県立保健大学との協定締結
2009年8月	セーフコミュニティ国際認証を初取得（全国で2番目）
2011年11月	全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議加入
2012年8月	8月を十和田市いのちを守る運動月間とする
2013年6月	外傷サーベイランス懇談会の設置
2015年2月	2回目のセーフコミュニティ国際認証を取得
2020年2月	3回目のセーフコミュニティ国際認証を取得

2007年1月に設立された「セーフコミュニティとわだを実現させる会」は名称変更し、現在も十和田市のセーフコミュニティのけん引役として活躍しています。



1

- 十和田市の概要

2

- セーフコミュニティの歩み

3

- **6つの指標に基づく取組**

4

- セーフコミュニティの啓発活動

5

- セーフコミュニティ活動の成果・効果

6

- 課題と今後の方向性

# 6つの指標に基づく取組（新指標）



指標	内 容
1	Governance - ガバナンス -
2	Surveillance - サーベイランス -
3	Comprehensiveness - 包括性 -
4	Highbreak Groups - ハイリスクグループ（ヒト、場所等） -
5	Evaluation - 評価 -
6	Networking - ネットワーク -



# 市の政策に位置付けるセーフコミュニティ

第2次十和田市  
総合計画



市の最上位となる十和田市総合計画に、安全・安心なまちづくりの手段として、セーフコミュニティを推進していくこととしています。

## 基本目標5

地域で助け合い、災害に強く犯罪のない、安全・安心なまち（安全・安心）

### 施策19 安全・安心な暮らしの確保

#### [ 目的 ]

犯罪意識の高揚に取り組むとともに、交通安全対策、各種相談体制の充実を図り、**事故やけがは予防できるというセーフコミュニティの理念**のもと、多様な主体との連携・協力により、安全で安心して暮らすことができるまちづくりを推進する。

#### [ 基本事業 ]

- ◆地域の安全対策の推進
- ◆交通安全対策の推進
- ◆事故や犯罪を未然に防ぐ環境整備
- ◆青少年の健全育成



# セーフコミュニティの推進体制

推進懇談会（座長 十和田市長）

外傷サーベイランス懇談会

助言、  
情報提供

活動報告

活動確認、助言、情報提供

検討委員会（庁内課長級で構成）

サポート

領域別対策部会

① 子どもの安全	② 高齢者の安全
③ 自殺予防	④ 交通事故予防
⑤ 防災	⑥ 暴力・虐待予防
⑦ 余暇活動の安全	⑧ 労働の安全

活動報告

活動報告

外部アセスメント

活動報告

日本セーフコミュニティ推進機構（外部評価）

# 推進懇談会のメンバー（33組織）

## ①安全・安心のための地域活動を行う団体の構成員

- ・十和田市町内会連合会,十和田市民生委員児童委員協議会,十和田市連合P T A,十和田市交通安全協会,十和田市老人クラブ連合会,十和田市連合婦人会,青少年育成十和田市民会議,とわだセーフコミュニティをみんなですすめ隊

## ②地域の安全・安心の確保に関し、識見を有するもの

- ・十和田商工会議所,十和田市議会,十和田おいらせ農業協同組合,N P O 十和田国際交流協会

## ③保健、福祉及び医療関係者

- ・十和田市立中央病院,十和田地区医師会,十和田市歯科医師会,十和田市社会福祉協議会,青森県薬剤師会上十三支部

## ④教育関係者

- ・北里大学獣医学部,十和田市教育委員会,十和田市校長会

## ⑤関係行政機関の職員

- ・十和田労働基準監督署,上北地域県民局,上十三保健所,十和田警察署,十和田地域広域事務組合消防本部

## ⑥セーフコミュニティに関わる部長級の市職員

- ・総務部長,企画財政部長,民生部長,健康福祉部長,建設部長,農林商工部長,教育部長

# S C 推進組織の会議

	2022.4月	5月	6月	7月	8月	・・・	11月	・・・	2023.3月
①推進懇談会					○				
②検討委員会			○						
③8領域別 対策部会		○ 全体会議	②に報告		①に報告		④に報告		
④サーベイラ ンス懇談会							○		



◀①推進懇談会



▲③対策部会



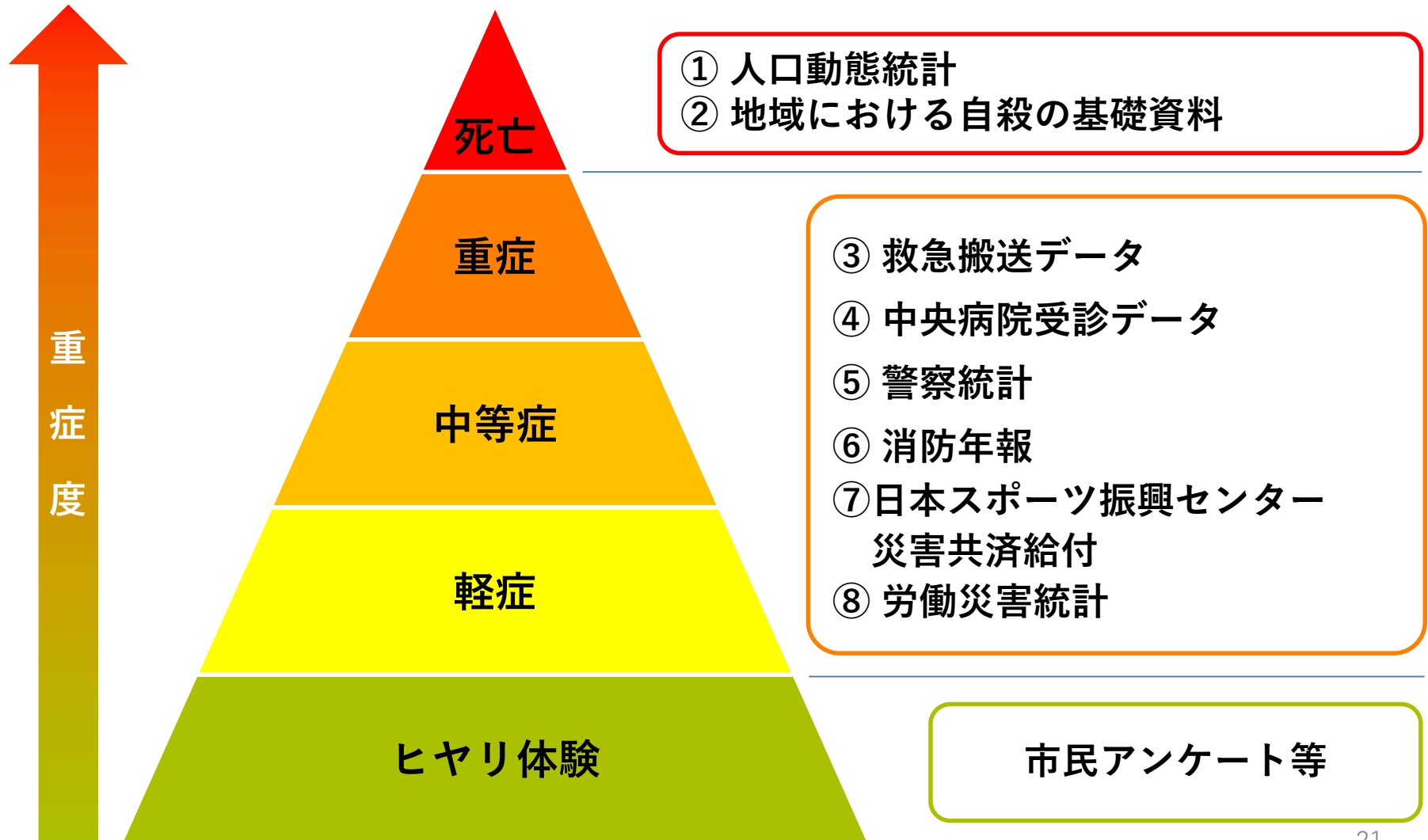
◀②検討委員会



◀④サーベイランス懇談会

## 指標 2 Surveillance -サーベイランス-

### ■ データの収集



# 指標 2 Surveillance -サーベイランス-

## ■ データの収集

領域		選定した理由
1	子どもの安全	①乳幼児の自宅（屋内）での転倒、転落等のケガが多い。 ②小学校では休憩時間でのケガが多い。
2	高齢者の安全	①高齢者は不慮の事故（特に窒息）による死亡率が高い。 ②高齢者は外傷受傷率が高く、主な原因として日常生活での転倒・転落によるケガが多い。 ③高齢化が進み、高齢者世帯が多くなっている中、高齢者は不安を持って生活している。
3	自殺予防	①自殺の原因・動機は健康問題が多く、幅広い年代で自殺を誘発する。 ②身近な人が自殺の兆候に気付いていない。 ③20代からの労働者世代と高齢者世代に自殺者が多く、割合としては男性の割合が高い。
4	交通事故予防	①反射材をつける人が少ない中、歩行者の事故の多くは高齢者であり、時間帯は薄暮から夜間に発生している。 ②交差点での事故が多い。
5	防災	①毎年、火災による死傷者が発生している。 ②災害時の高齢者や障害者等の備えに不安がある。

# 【指標 2】 Surveillance -サーベイランス-

領域		選定した理由
6	暴力・虐待予防	<p>①子どもや高齢者、女性に対する虐待が発生している。</p> <p>②虐待を受けたと思われる乳幼児や高齢者を発見した場合でも相談・通報しない人がいる。</p>
7	余暇活動の安全	<p>①運動・競技のけがは10～20代前半に多く、スポーツ施設、学校・公共施設での発生が多い。中等症以上のケガも発生しているが準備不足が原因と思われるケガも発生している。</p> <p>②観光地における自転車事故が発生している。</p> <p>③外国人観光客の増加に伴い、緊急時の対応を図る必要がある。</p>
8	労働の安全	<p>①農作業中のけがは60歳以上に多い。中等症以上の受傷は農機具による割合が大きい。</p> <p>②製造業や商業、建設業等様々な職種で労働災害が発生しており、転倒、転落を原因とするものが多い。</p>



領域別対策部会による取り組み



# 【指標3】 Comprehensiveness -包括性・持続性-

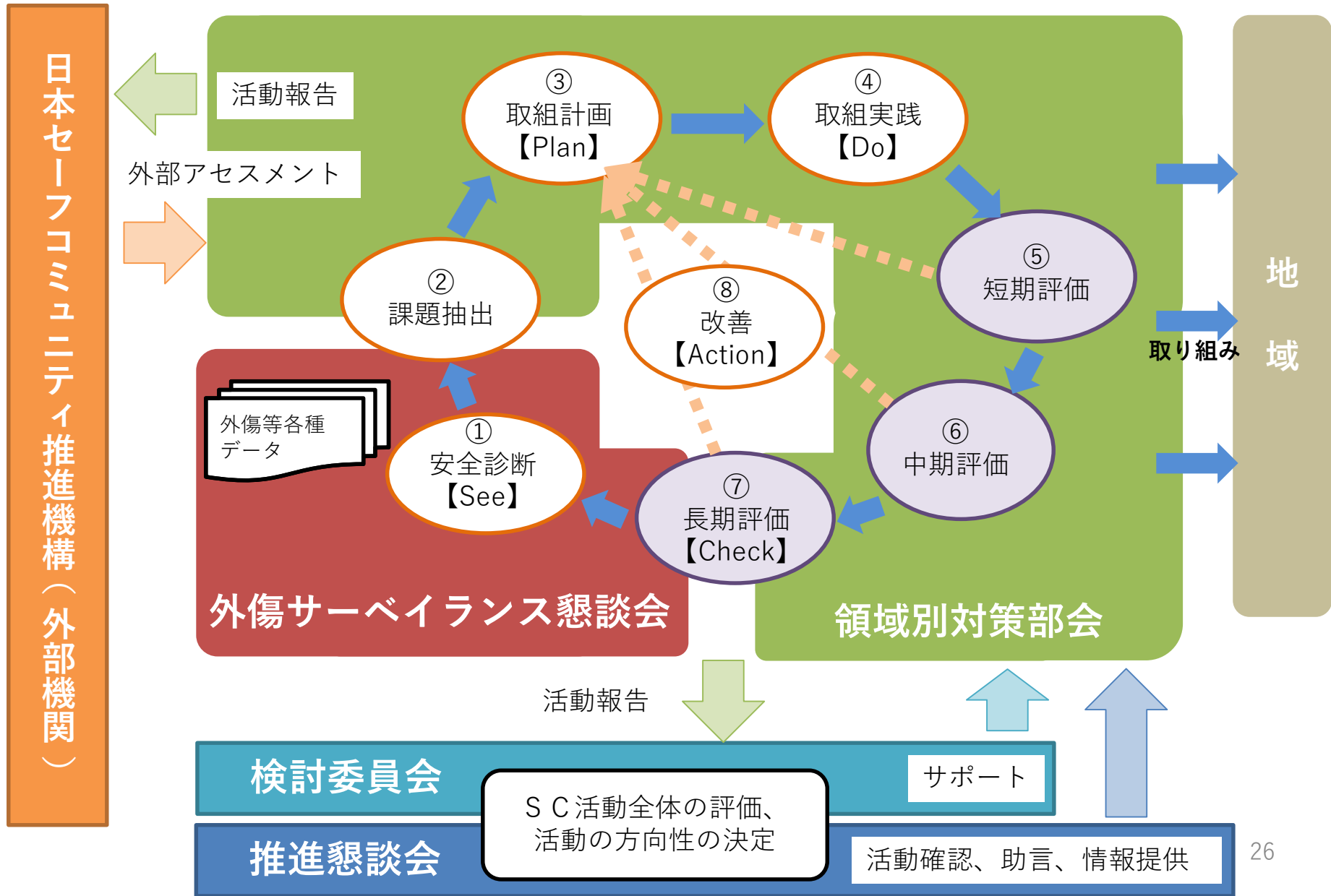
分野		子ども 【0～14歳】	青年 【15～24歳】	成人 【25～64歳】	高齢者 【65歳以上】	
故意の要因	家庭内の安全	自宅内	子ども見守り活動 乳幼児健診（子）	乳幼児健診（親）	乳幼児健診（親）	いきいき体操 地域介護予防教室 転倒防止啓発 認知症・虐待予防
		水の安全	風呂での溺水予防（子）	風呂での溺水予防（親）	風呂での溺水予防（親）	風呂での溺水予防
	公共の場の安全	交通（道路）の安全	交通安全運動 登下校の見守り 交通安全教室 防犯カメラ・防犯灯	交通安全運動 交通安全教室 防犯カメラ・防犯灯	交通安全運動 防犯カメラ・防犯灯	交通安全運動 運転免許自主返納支援 防犯カメラ・防犯灯
		学校の安全	リトルジャンプチーム 避難訓練 教育相談室 放課後子ども教室	避難訓練 コミュニティ・スクール 教職員研修 P T A 活動	コミュニティ・スクール 教職員研修 P T A 活動	コミュニティ・スクール
		余暇・運動の安全	A E D の設置（学校） ウォーミングアップ普及	湖畔レジャー安全パトロール 遊歩道・樹木安全点検 A E D の設置（学校等） 普通救命講習	湖畔レジャー安全パトロール 遊歩道・樹木安全点検 A E D の設置（公共施設） 普通救命講習	遊歩道・樹木安全点検 A E D の設置（公共施設） 普通救命講習
		その他 ①医療機関 ②市内の水路	①地域医療連携の充実 ①医師確保・人材育成	①地域医療連携の充実 ①医師確保・人材育成 ②保全会による維持管理	①地域医療連携の充実 ①医師確保・人材育成 ②保全会による維持管理	①地域医療連携の充実 ①医師確保・人材育成 ②保全会による維持管理
	防災と災害対応		市総合防災訓練 避難訓練（学校） 幼年・少年消防クラブ	市総合防災訓練 避難訓練（学校） 少年消防クラブ	市総合防災訓練 自主防災訓練 婦人防火クラブ	市総合防災訓練 自主防災訓練 婦人防火倶楽部
	労働の安全			安全衛生大会 安全衛生に関する法定講習会・法定外講習会 巡回健康診断	安全衛生大会 安全衛生に関する法定講習会・法定外講習会 巡回健康診断	安全衛生大会 安全衛生に関する法定講習会・法定外講習会 巡回健康診断
	意図的要因	暴力・虐待	相談支援 子ども見守り活動 人権教室 乳幼児健診（子）	相談支援 家庭訪問指導 乳幼児健診（親）	相談支援 家庭訪問指導 乳幼児健診（親）	相談支援 人権教室
		自殺予防	教育相談室 S O S の出し方教育	ゲートキーパー養成講座 こころの健康相談 市民相談	ゲートキーパー養成講座 こころの健康相談 市民相談	ゲートキーパー養成講座 地域いきいき教室 市民相談



# 【指標4】 Highrisk Groups - ハイリスクグループ -

	ハイリスク（ヒト、場所等）	予防活動
1	自殺企図者	・ 早期治療につなげる専門医療との連携
2	虐待を受けている子どもや高齢者	・ 児童虐待防止ネットワーク ・ 高齢者虐待防止相談支援
3	障がいをもつ人	・ 災害時要援護者支援事業 ・ 十和田市障害者支援協議会
4	外国人（居住者及び観光客）	・ 防災のポイント（4カ国語）の配布 ・ 防災訓練の実施
5	転倒等によるケガの割合が高い高齢者	・ いきいき体操、地域いきいき教室
6	交通事故多発交差点	・ 交通事故多発交差点マップによる注意喚起

# 【指標5】 Evaluation -評価-



# 【指標6】 Networking – ネットワーク –

年	内 容	参加状況
2019年	【現地審査】 埼玉県さいたま市	視察
	【認証式典】 埼玉県さいたま市	参加
2020年	【現地審査】 鹿児島県鹿児島市	オンライン参加
2021年	【会議】 全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議	オンライン参加
	【現地審査】 山梨県都留市、神奈川県厚木市	オンライン視聴
2022年	【会議】 全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議	オンライン参加
	【現地審査】 東京都豊島区、福島県郡山市	オンライン視聴
	【事前審査】 大阪府松原市、福岡県久留米市、京都府亀岡市（国内認証）	オンライン視聴
2023年	【学会】 日本市民安全学会 セーフコミュニティとNEXT市民安全	参加
	【現地審査】 大阪府松原市	視察
	【現地審査】 福岡県久留米市、京都府亀岡市（国内認証）	オンライン視聴
	【認証式典】 大阪府松原市（11月）	参加予定
	【認証式典】 福岡県久留米市（12月）	参加予定

# 【指標6】 Networking – ネットワーク –

## ■ 第10回アジアSC会議・第25回世界SC会議

- ・ワークショップにオンライン参加
- ・ポスターの提供

## ■ JISC主催の研修会・定例会

年	研修会	定例会
2019年	参加	参加（+和田市開催）
2020年	オンライン参加	オンライン参加
2021年	オンライン参加	オンライン参加
2022年	参加	オンライン参加
2023年	参加	参加予定

### 25<sup>th</sup> International and 10<sup>th</sup> Asian The Safe Community Conference in Sejong, Korea

---

**Impacts of Traffic Safety programs in Safe Community Towada, Japan**

IWASAKI Yukako, Team leader, Safe Community Team, Division of Community Development, Japan

**Keywords**  
Safe Community, number of traffic accident, safety diagnosis, cooperation of government and community, community development

**Background & Objectives**  
Towada City was firstly designated as Safe Community in 2009 and has been working on community development to improve safety in the collaboration with community and government.  
What made Towada to start Safe Community program was high occurrence rate of traffic incidents which was higher than many of other communities in Aomori Prefecture. Therefore, as one of priorities in Towada, the strategy of Safe Community was introduced to deal with traffic safety. Since then, with the model of Safe Community, Towada has been working on prevention of injuries and incidents which cause injuries.


**Program Contents**  
Towada set traffic accidents prevention as one of the important issues and formed a task force composed of representatives of organizations across various sectors. As a result of community diagnosis, it was revealed that accidents tend to occur on the certain road conditions and cross points and that the senior is at the high risk. So, the task force has been working on distribution of reflectors and sharing the information about high-risk spots as preventive measures.

**Outcomes**  
Although there are less opportunities to visit individual household regularly due to Covid 19 pandemic, upon continuous information provision and some other efforts, there is decline in the number of traffic incidents.

**[Short-term]**  
-The number of visits to elderly households has decreased to 1252 in 2021 from 1860 in 2017.  
-The number of traffic accidents at crossroads has decreased to 103 in 2021 from 157 in 2017.

**[Short- and Mid-term]**  
The number of traffic accidents in Towada city(per 10000 population) has decreased to 20.9 in 2021 from 56.8 in 2009 which was the worst in the prefecture.

**Fig. Trend of injuries and RTA**




Reflection on  
shoes for the safety

**Conclusion & Future Plans**  
Although enlightenment programs are not as active as before Covid 19 pandemic, the Safe Community programs, the continuous collaborative works by governments and communities is now well rooted and have contributed to the reduction of traffic incidents.  
For the future, with regular assessments, collaborative work by governments and community will be promoted.

**Address for correspondence**  
Name: Iwasaki Yukako  
Organization: Towada City, Japan  
Postal Address: 6-1, Nishi 12 Jicho Towada City, Aomori Prefecture, Japan 034-8615  
Tel: +81-176-51-6777  
E-mail address: motobahori@city.towada.lg.jp

1

- 十和田市の概要

2

- セーフコミュニティの歩み

3

- 6つの指標に基づく取組

4

- セーフコミュニティの啓発活動

5

- セーフコミュニティ活動の成果・効果

6

- 課題と今後の方向性

# 8月は十和田市いのちを守る運動月間

## ▼広報とわだによる運動月間の周知

8月は「十和田市いのちを守る運動月間」です  まちづくり支援課 ☎51-6777

市では、2012年に初めてセーフコミュニティ（SC）の認証を受けた8月を「十和田市いのちを守る運動月間」としています。SCは「事故やけがは予防できる」という考えに基づき、事故やけがのデータを集め、分析しながら、地域住民や各種団体、行政が一体となって予防に取り組む活動です。今回は、皆さんも取り組む「いのちを守る行動」をご紹介します。

### ■「ハンド&サンクス」で安全横断！！

横断歩道は歩行者優先ですが、青森県の「信号機のない横断歩道での車の一時停止率」は、全国ワースト3位の14.0%（全国平均30.6%、2021年JAF調べ）です。運転手は、横断者がいたら必ず停止をしましょう。

また、歩行者は横断の意思表示（ハンド）と止まった車への感謝（サンクス）を伝える「ハンド&サンクス」で、安全横断を心掛けましょう。

※「ハンド&サンクス」は、青森県警察が取り組んでいる交通安全スローガンです。



### ■「どうしたの？」「ありがとう」の声掛け

新型コロナウイルスの感染拡大により、学校や職場などで不安やストレスを感じる人も多いと思います。元気がない人に「どうしたの？」、何かをしてもらったら「ありがとう」と、友達や同僚に声掛けをしてみましょう。

「とわだセーフコミュニティをみんなですすめ隊」では、SCの取り組みを子どもたち伝えるため、市内在住のクラフト作家「miu.labo」がデザインしたキャラクターによる声掛けうちわを製作し、啓発活動を行っています。



「miu.labo」がデザインしたキャラクター

 子どもから大人まで、一人一人の小さな行動が、みんなのいのちを守るセーフコミュニティ【安全・安心なまちづくり】につながります！

## ▼市役所別館に懸垂幕を設置



## ◀市役所本館内にPRコーナーを設置（2023年から実施）





# 安全・安心なまちづくり総決起大会



- ①リトルジャンプチーム（小学生）による発表
- ②SC対策部会による活動報告
- ③高齢者向けの健康体操を体験
- ④JISCによる講演

1

- 十和田市の概要

2

- セーフコミュニティの歩み

3

- 6つの指標に基づく取組

4

- セーフコミュニティの啓発活動

5

- **セーフコミュニティ活動の成果・効果**

6

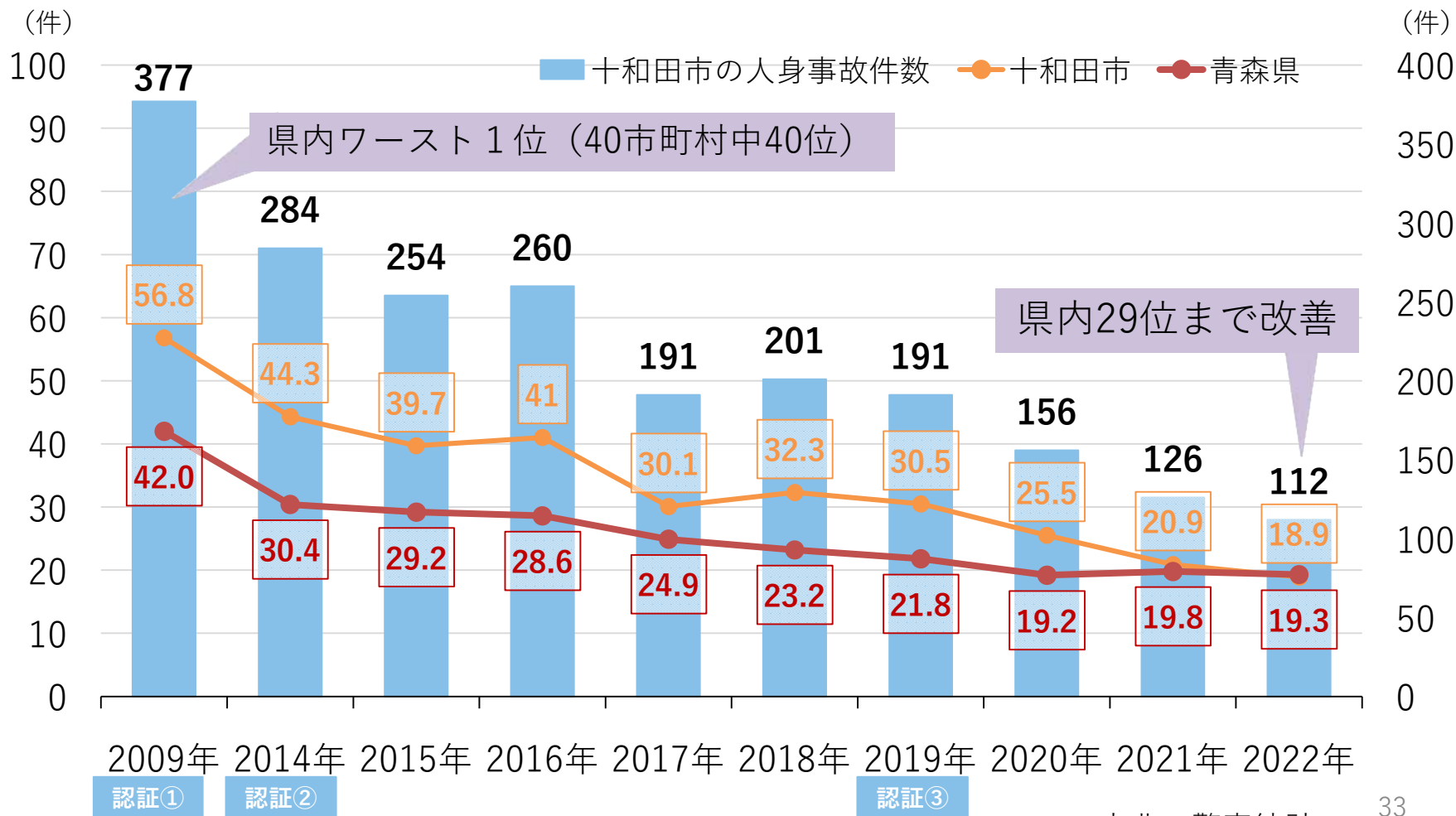
- 課題と今後の方向性



# 交通事故発生件数の大幅な減少

発生件数は年々減少し、青森県の平均を下回る。

## ■交通事故発生件数の推移（1万人あたり）



出典：警察統計

# 近年は18歳未満の不慮の事故等による死亡者はゼロ

前回の認証以降、18歳未満の死亡者が発生していない。

## ■不慮の事故等による年代別死亡者数年代別

死亡原因	合計 n=260	2014～2018年			合計 n=155	2019年～2021年		
		0～17歳	18～64歳	65歳以上		0～17歳	18～64歳	65歳以上
不慮の事故	157人(60.4%)	3人	33人	121人	91人(58.7%)		18人	73人
窒息	53人(20.4%)	1人	8人	44人	20人(12.9%)		4人	16人
交通事故	28人(10.8%)	1人	11人	16人	13人(8.4%)		3人	10人
転倒・転落	20人(7.7%)		3人	17人	13人(8.4%)		2人	11人
溺死	25人(9.6%)	1人	6人	18人	20人(12.9%)		2人	18人
煙及び火炎への曝露	6人(2.3%)		0人	6人	5人(3.2%)		0人	5人
有害物質による中毒	4人(1.5%)		1人	3人	0人(0%)		0人	0人
その他の不慮の事故	21人(8.1%)		4人	17人	20人(12.9%)		7人	13人
自殺	80人(30.8%)	1人	44人	35人	46人(29.7%)		25人	21人
他殺	1人(0.4%)		0人	1人	2人(1.3%)		1人	1人
その他の外因	22人(8.5%)		3人	19人	16人(10.3%)		1人	15人

# 県立高校によるセーフコミュニティ活動

## 令和3年安全功労者 内閣総理大臣表彰を受賞

県立十和田西高等学校が安全・安心な学校を目指して取り組む「セーフコミュニティをすすめ隊研究活動」などが安全教育の推進に多大な貢献をしたと評価される。



## 総合的な探求活動の授業で セーフコミュニティを導入

2021年4月に開校した県立三本木農業恵拓高等学校普通科1年生の授業に「セーフコミュニティ」を取り入れ、生徒が自主的に課題解決に向けて取り組んでいる。



1

• 十和田市の概要

2

• セーフコミュニティの歩み

3

• 6つの指標に基づく取組

4

• セーフコミュニティの啓発活動

5

• セーフコミュニティ活動の成果・効果

6

• 課題と今後の方向性

- 2009年の認証取得から14年が経過したことで、部会員のS C活動の認識に温度差が生まれている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、前回の認証から思うような活動が出来ていない。
- 現在の部会の体制では、取り組みが非効率となっている。

## ● I T 技術の積極的な活用

- 市公式 SNS による情報発信を行う。
- リモート会議による他自治体と情報交換する。

## ●持続可能な取り組み体制を整備

- 部会間の連携強化や市民・関係団体の新規参加を呼びかける。
- 部会の統合を視野に入れた活動の実施
  - 例) 子どもの虐待対策を子どもの安全対策部会で検討する。



# ご清聴ありがとうございました

今日も無事でいてほしい

---



十和田市セーフコミュニティ推進マーク  
「十」十和田市の安全な街並み、  
「和」美しい郷土・十和田湖と紅葉、  
「田」人々の協働・交流・絆を表現